

平成 30 年 12 月 14 日

平成 30 年 11 月度市況

東京洋紙同業会（紙青会作成）

<印刷用紙 A>

平判は学参副教材関連・約款・封筒・コミケ関連と全体的に活発な動きが見られ、前年を上回った。
（前年比 105.3%）

巻取は金融・学校案内関連・企業の中間決算報告書・チラシ等の動きが順調に推移し、前年を大幅に上回った。
（前年比 123.3%）

再生紙は巻取を中心に官公庁関連の仕事を前年並みに確保出来たが、平判小口物件は件数は昨年並みであったが、部数の伸びが悪く前年をやや下回った。
（前年比 再生上質平判 96.8% 再生上質巻取 102.7% 再生上質計 99.1%）
（前年比 印刷用紙 A 108.8%）

<A2 コート>

平判は目論見書、半期事業報告書、各企業カレンダー、カタログ等で動きが見られ、グロス紙、マット紙ともに前年を上回った。

巻取は生損保パンフレット、高級マンション、自動車チラシ等で動きが見られ、平判同様グロス紙、マット紙とも前年を上回った。
（前年比 平判 103.1% 巻取 108.4% 全体 104.2%）

<A3 コート>

百貨店、量販店等各種ボーナス商戦向けチラシ、学習塾関連のパンフレット、チラシ等例年通りの動きが見られ巻取を中心に前年を上回った。
（前年比 平判 86.8% 巻取 113.4% 全体 102.9%）

<ノーカーボン紙>

生損保関連、確定申告案件と動きはあったが、一部ウェブ化、部数減少の影響もあり全体的な動きも弱く、平巻ともに大幅に前年を下回った。
（前年比 平判 85.4% 巻取 84.6%）

<上質フォーム>

新規の取り込み等はなかったが、株式関連、官庁関連の通知書等の案件が取り込み前年並に推移した。

(前年比 99.0%)

<包装用紙>

特殊両更は役所関係の封筒の動きも低調で、また、その他でも目立った動きが無かった為昨年を大きく下回った。

(前年比 84.7%)

両更晒は高額商品向け手提袋用途や、簡保の封筒用途で動きがあり前年を上回った。

(前年比 120.2%)

片艶晒は専門店手提袋用途や金融関係の封筒用途で動きがあり前年を上回った。

(前年比 103.0%)

純白ロールは既製品包装用途や生花店向けの包装紙が低調で前年を大きく下回った。

(前年比 79.5%)

特殊両更、純白ロールが低調な事もあり包装紙合計で 93.4%と前年を下回った。

<板紙>

特板等の POP、ディスプレイ関連や菓子関係の動きは低調であった。暖冬の影響から冬物商品や医薬品などの動きも鈍かった。パッケージでは環境問題もあり紙への移行もあるが、全体を押し上げるほどではなく前年をやや下回った。

(前年比 98.0%)